

会 議 録

- 1 会議の名称 図書館協議会
- 2 開催日時 令和6年7月1日（月）午前10時30分～12時
- 3 開催場所 熊取町立熊取図書館 2階ホール
- 4 議題 案件1 令和5年度図書館事業報告について
案件2 その他
- 5 公開・非公開の別 全部公開
- 6 傍聴者数 1人
- 7 審議会等の概要

●案件1 令和5年度図書館事業報告について

【事務局からの説明】

「令和5年度図書館事業報告」（事前配付資料）について、重点的に取り組んだものや新しく取り組んだものを中心に報告。報告した事業は、施策番号④ICTを活用した情報提供（図書館の情報発信として町LINEや図書館公式Instagramでの取組み、地域資料の情報発信として、『かりそめのひとりごと』に係る講演会の動画配信、調べる学習コンクール優秀作品の電子図書館での公開）。⑦図書館の蔵書やサービスに関する情報発信（「スマホで図書館をもっと便利に♪」の定期開催）、⑨一人ひとりの住民への読書活動の支援（貸出冊数、予約件数）、⑩課題解決支援のための図書館サービス（生活応援ガイド「シニアライフ3」の作成）、⑪子どもの読書環境の整備（ブックスタートスタッフの拡大、住民提案協働事業「エンタメ KUMATORI」、「いろいろなことばのえほんのひろば」、「絵本作家たかだしんいちの原画展・絵本の読み聞かせ」）、⑬町内大学との連携による学習機会の充実（3大学への出張利用登録）、⑭住民との協働による事業の実施（「としょフェス」「まちサロン」）、⑮住民活動を活性化するための支援（会議室・ホールの条例規則改正による利用範囲の拡大）、⑯住民団体・関係機関等とのネットワーク・地域交流の推進（ひろがる図書館の輪の実施、住民主催イベントへの出前講座等）。あわせて、令和6年5月に開催された「熊取町子ども読書活動推進連絡協議会」で報告のあった子どもの読書状況について報告した。

【委員からの主な意見・感想等】

〇SNSを有効に使っているが、アクセスされてる年代がわかるか。もしわかれば、子どもたちが

うまく SNS とつきあうということが大きな課題になっているが、図書館の PR に利用するのはとてもいい活用の仕方だと思うので、そういう面では調査を進め公表すると、またより良い利用の仕方が出てくると思う。

→年齢層までのデータはとれていない。

○令和5年度の利用等が令和4年よりも下がっているのはどういうことが考えられるか、わかる場所があったら教えてください。

→読書離れが広がっているように思う。コロナの間に、図書館に来ることが日常だったとか、定期的に来られていた利用者が、図書館に来るという生活のサイクルをなくしてしまい、コロナが5類になっても、その方たちのサイクルが元に戻ってないように考えられる。子どもも図書館に本を借りに来るサイクルが失われつつあるようで、いろんな事業をして子どもたちに来てもらえるようにしているが、図書館が普通に来れるようになったと言っても、なかなか人の行動は、前のように回復していないと思う。ただ住民1人当たりの貸出冊数で見た場合、令和元年度は6.11冊で、令和4年度が上がって6.23冊、令和5年度が少し下がって6.15冊で、住民1人当たりで考えた場合は、コロナ前より、令和5年度の方が増えているので、若干人口にも影響している。

○予約受付件数は、コロナの間の令和2、3年度は増え、令和4年度は落ちついて、令和5年度はほぼ横並びになっている。

→最近、利用者の図書館での滞在時間が長くなったように感じる。予約の増加は、図書館に来て本棚から選ぶのではなく、予約した本を取りに来て、それを借りてすぐ帰るようになっていて、実際カウンターに立っていると貸出に来るが、フロアへ行くと、以前だったら棚の間に利用者がいたのが、今は利用者の姿があまり見かけられないし、また駐車場も車がそれほどいっぱいにならない。滞在時間が短くなってるように感じる。

○子ども子育て会議の中で調査した中高生の状況が、圧倒的にネットを見る時間が多かった。自分の生活を考えても、例えば、生の資料をあたるにしてもまずネットで探して、それにも結構時間がとられて、あとは止むなく紙媒体で見るといいたいところがあるので、人間の行動パターンも随分変わってきた。だから、学校の子どもが、そういう日常生活は、好んで選択してるというより支配されている。それを学校の先生たちがどういう議論をするか重要と思う。

○スーパーのように必要なものだけ買って帰るような本の借り方は、十分行動の変化としてあり得るものだが、そういう意味で、図書館を中心にして自己紹介をされているいろいろな団体が結びつくような図書館の試みは結構重要。

○書店がなくなっていることを経産省でも取り上げてきているが、日本図書館協会はどうか。

→（委員から）日本図書館協会では、公共図書館の本の購入の仕方が入札に変わってきていて、

入札になると、地元の書店は頑張っても勝てない。だから、地元の書店で本を購入して図書館を活性化し、書店も活性化することをやっていかなければならないことに気がついた。

○図書館資料は地域の人の生活の状況であったりとか、いろんな情報を司書が入手して買うべきだが、購入の仕方がTRCの各図書館に販売されている新刊情報案内に、売れ筋の本にマークがついていて、それで買う便利さがあり、全国の80%の図書館がそれに頼ってしまっているところがあるため、本の購入の仕方をもう1回見直す必要がある。

→熊取はもともと大阪屋を取次店として熊取町書店組合から本を購入していたが、今は1社しかなく組合が成り立たない状態。ただ地元企業の育成という観点からも、その1社から購入。大阪屋が図書館部門を廃業したので、取次の役割はTRCに変わった。TRCからは新刊情報集案内と一緒に特集案内等いろいろなものが配られるので、選書等に関する業務をパッケージとして販売してるように思う。もともと熊取はそんな便利なものがない中でやってきたので、新刊案内を使って発注をするが、選書は司書がしている。児童書に関しては、読み物は全部読んで買うか買わないか決める。一般書はその新刊案内を見ながら、熊取図書館の蔵書として必要かどうかを司書が選書している。

○利用の形態がコロナの後に変わってきた件で、カウンターでの職員と利用者の対話が、どんな具合になってるか。予約本だけ取りに来てさっと帰るのではあまり対話はない。「最近はどうですか」ということも含めて、「今こんなコーナーを作ってるんですよ」とか、それぞれの対象によっては、「こんなコーナーができてますから時間があればどうぞご覧になってください」とか、対話がそこで生まれて欲しいと思う。大阪ではなかなか職員と利用者で話ができないとか、コロナ前だったらもっと職員にいろんな情報をもらえたけど今はもらえないと言われてる。熊取のカウンターは、今までもいい対応をしていたと思うが、どのように気をつけているか。

→図書館としてはいろんな情報を提供したいので、カウンター周りに、図書館のInstagram案内やイベントチラシを置いたりしており、今度このイベントがあるのでどうですかというやりとりなどはある。また、リサイクルブックフェア前はリサイクルブック実行委員会が作ったチラシを貸出カウンターに来られる方ほぼ全員に渡しながらか案内している。

○読書バリアフリー法ができて、なかなか図書館に来られない人に対して、具体的にどんなことをしているか。

→点字図書・大活字本・さわる絵本・布絵本などの資料を入口すぐの「りんごの棚」というコーナーに置いて貸出している。自宅まで本を届ける「宅配」は、現在6人の登録があり、昨年度は691冊貸出した。「対面朗読」は、しばらく申込がない状態だが、希望される方がいれば、町内の朗読ボランティアと繋がっているのを常に対応できるようにしている。また、「アクセシブルライブラリー」という視覚障害者専用の電子図書館も導入していて、申込者には専用のカードを交付し利用できる状況になっている。

○最近、図書館の非正規職員の問題や学校図書館職員の問題が、国会議論されたり、社会問題になっている。特に学校図書館の非正規が増えて、ワーキングプアが増えている。熊取は一定改善はされてるか。

→学校図書館司書の導入が平成13年に全8校に入りかなり先進的に熊取は始めたが、ただ、当初は臨時職員、今は会計年度職員に変わったが立場は変わっていない。小学校で週5日、中学校で週4日勤務している人が1人ずついるのは、全国的に見れば非常に恵まれた状態だが、会計年度職員という待遇で、激務をこなしている状態。

○学校図書館司書がいてることで、20数年前の子どもたちのつき合いと、今日までの子どもの読書の変化はどうなっているか。

→学校図書館は、学校図書館司書がいなかったときは、開くのはお昼休みだけとか、担当の先生が学校図書館を開けられるときだけ開けるような状態だったのが、学校図書館司書がいるようになって、朝から夕方まで毎日開いている。小学校では週に1回ある図書の授業が、司書が最初に本の読み聞かせするなど図書の時間の使い方が確立されていく中で、子どもたちは本を借りて返すことが習慣化していると思う。それと、子ども読書活動推進計画を作ったことで、その会議などを毎年開催したり、読書活動で図書館を使うことや年間計画を必ず作る。また、司書教諭・学校図書館司書・図書館が集まる学齢期子ども読書活動推進連絡会議の中で、各校の取組みを発表してもらったりして、先生たちも学び、子どもたちも変わったが、先生たちが一番変わったと思う。

○小学生の子どもが、学校図書館が全ての休み時間に開いてるので、休み時間に学校図書館で過ごすことが多く、図書委員やいろんな学年の子どもが来るので、いろんな学年の子どもと交流したり、友だちが増えたりすることがある。また、教室で居心地が悪い子どももいると思うので、学校図書館は読書以外にも居場所提供になっていると感じる。

○まちサロンは講師になる方からしたいと声があるのか、それとも、図書館から声をかけるのか、どんな仕組みでしているのか。

→両方のケースがある。ビール小噺は、講師の方からの申し出で、昼のワークショップは、図書館入口横すぐの町内事業者が宣伝できるお店コーナに展示に来られた方と話をする中で実現した。野菜収穫祭とチョコレートのワークショップは、図書館入口前屋外スペースに出店している関係者。2者とも日頃いろいろ話をする中でそれぞれに関連することの講演やワークショップを開いてもらうことになった。これまでも、入口の展示場所に來た事業者と話すると、面白そうな話をしてくれるので、それを住民に向けて話して欲しいというパターンでまちサロンを実施することが多い。

○大学生や大きくなるにつれて、図書館を利用せずに、何でもインターネットで調べる現状がある。

→学齢期子ども読書活動推進連絡会議で、小学校までは図書の時間があった、中学校になると図書の時間がなくなり中学1年生はすごいショックを受ける。熊取は学校に行く前から、文庫連が保育所におはなしキャラバンに行ったり、保育士も主体的に絵本の取り組みをしていて、小学校に上がった学校図書館がずっと開いていて、図書館を使った授業もあるという積み重ねがある中で、中学校になると、調べ学習はあるけれども、日常的に図書館に行くシステムがなくなってしまうのが、図書館から足を遠ざけてしまうきっかけになっていると感じる。

○小学校では調べ学習で図書館を利用する取組みを進めているが、中学校になると勉強がとても多いので、図書の時間を入れるのが無理な時間割なんだろうと思う。図書館が遠のいてきた中学生に、「図書館に来て、図書館のイベントに参加してください。」は難しいというか、そういう意識から離れてしまっていると思う。大人向けの絵本の読み聞かせを聞いて、とても有益に感じたことがあったので、中学校で図書という授業の枠は無理かもしれないが、おはなしキャラバンなどが行ってくれて、中学生がまた本に触れ合え、やっぱり本って面白いとなればいいと思う。特に10代後半になると、活字に触れる機会が大事だと感じた。

○子どもさんの図書館離れに関して、学校への団体貸出はクラスか、学校図書館か。また、個人で借りたい場合はどうするのか。

→連絡便も走ってるので、学校司書を通じて全部、申し込んでもらい、学校図書館から貸出してもらう。子ども個人の予約、調べ学習用、先生方が読みたい本、学習に使いたい本、図書委員会で使う企画の本などいろんなことで、図書館の本を使っている。

○ひろがる図書館の輪での雑談の中で、この図書館ができるまでとか、できてから30年の間にあった話などをしていたら、そのストーリーに感銘を受けた、すごく愛着を感じたし、関わってくれた方たちに尊敬とか、深い感謝の思いを持ったと言われた参加者がいた。そういう図書館の歴史を知らない人が多くなってきて、いかに皆さんに知っていただくか、また、町の方たちにも愛着を持ってもらう方法を考えていきたいと思う。

○いろんなアイデアは雑談の中から出てくるが、いろんな組織であんまり雑談をしなくなり効率的に用のある話しかしていないので、各個人が持っている財産が共有されず、目的限定の情報の共有になっている。雑談がたくさんある世界は、どんどん活性化すると改めて思った。

○日本の教育は満遍なく勉強することを強要しているシステムで、中学校になると加速し、若者の半分ぐらいはそういうカテゴリーに入ってるが、半分ぐらいはもうそのカテゴリーに入らず自己否定感になっていく。だけど、そういう苦しい逆境の中でも、そこから離脱し自分の特殊な興味を持ち続けて、自己否定感を全く持たず、自分の趣味で好きなことを貫いてる学生は、伸び始めたらすごい。中学校で離脱してる子どもはたくさんいて、その興味を育てる情報が図書館にあるので、うまく結びつけることで、学校の楽しさとは全く違う人生の楽しみみたいなものを得る

ことができるように感じる。そうしないと、人の命令を聞くけど、自分の好きなところで物事をつくり出せる人材がどんどんなくなっていく。そういう意味では、図書館の文化は、今、学校が強要してる文化から離脱してる文化なので、それをどんどん力をつけていくことが、日本の文化にとって重要なと改めて思った。見解の相違があると思うが、図書館は頑張っ欲しい。

●案件2 その他

○前回の協議会の中で高齢者の利用状況についての質問があったので、この10年間のいろんな側面で見た場合の高齢者利用状況の資料を配ったが、次回以降にとりあげたい。

○30周年記念事業は実施するのか。

→ひろがる図書館の輪で、30周年事業について話し合った。図書館30周年記念の冠をつけながら、9月の後半ぐらいから年度内のロングスパンで、住民と協働でいろんなイベントをする予定。

○この図書館を鬼頭梓氏が設計したときに、「こういう施設を育てるのは100年の単位です。自分の作品を作るのではなくて、住民が100年育ててもいいというものを提供するのが設計者の役割です。」と話された。だから、熊取町民が30年間でこの図書館をどう育てたか、総括する必要があると思う。

→検討したいと思う。

○次回の図書館協議会は10～11月頃に開催予定。

8 審議会の情報	名称	図書館協議会
	根拠法令等	図書館法、図書館条例
	設置期間	平成6年4月1日～
	所掌事項	図書館の運営に関すること
	委員数	10名

9 担当課	図書館
-------	-----